

## 経済学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部では、①経済学・経営学の基本的知識・原理・理論を体系的に修得し、それらを基盤として自律的に知的活動を展開することができる、②社会科学的思考法に沿って様々な社会現象を分析し、定性および定量的手法を用いて因果メカニズムを明らかにすることができる、③社会、文化、国際関係の観点から経済・経営活動の役割と責任、倫理、理想像を論じることができるという教育目標を達成するため、経済学を学ぶ経済学科、および、経営学を学ぶ経営学科を設置しています。これらの2つの学科では、全学共通の「全学教育科目」および体系的に配置された「専門科目」をもって、4年間の学士課程における教育課程を編成しています。

本学部の専門科目については、学科ごとに教育課程編成・実施の方針を定め、それぞれ育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。

## 経済学科・経営学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学科・経営学科では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

・ 主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることができるようなカリキュラムを編成している。

・ 2年次以降では、経済・経営分野に関する専門性を深めるため、学部専門科目を開講する。経済学・経営学の基礎知識の修得、経済社会の歴史への理解、複雑な経済・経営現象の本質を捉える能力、現代社会の問題を発見し具体的に解決していく能力を身につけることを目的として、カリキュラムを編成している。具体的には、経済学科では、抽象的な分析的理論、歴史的研究、現実問題に接近する応用分野など、広く多様な専門領域を体系的に学ぶため、「理論経済」「経済と社会」「経済史」「統計と計量経済」「経済政策」「国際経済」をキーワードとする科目を開講する。また、経営学科では、企業の経営戦略、国際的展開、経営内容の伝達手段である企業会計、さらに経営分析などの理論を体系的に学ぶため、「経営」「経営情報」「会計」をキーワードとする科目を開講する。

・ 経済・経営活動を分析する能力を養成するため、3年次以降に演習（以下、ゼミナールと表記する）を開講する。各ゼミナールは、少人数かつ3・4年次に実施するという特徴もっている。少人数であることにより、個々の学生にあわせた指導を徹底することが可能になっている。

・ ゼミナールでは、各教員の専門領域に従って文献講読、データ解析、フィールド・サーベイなど様々な方法が実践され、複眼的な視点から論理的思考力、問題解決力、批判的思考

力を身につけることができる。

・ 4年次には、卒業論文を必修としている。卒業論文を作成することで、論理的思考力、問題解決力、批判的思考力を一層洗練させ、2年間のゼミナールで学んだことを論文としてまとめる経験が得られる。

## 学修成果の評価の方針

### I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる「涵養する人物像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに到達目標を設定し、履修者の「学習成果の質」（達成度）に応じて行うこととする。
2. 「演習」として開講する科目は、11段階評価に統一する。
3. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されており、当該「到達目標」にもとづく成績評価の結果を学期ごとに経済学部FD委員会で検証し、必要に応じて担当教員に「到達目標」の再検討を依頼するとともに経済学部教授会で報告する。

### II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行う。
2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはできない。
3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定める。